

# 国際化



- ・シーナカリンウィロート大学（タイ王国）と大学間学術交流協定を締結
- ・南フロリダ大学が岐阜大学を訪問し、学術交流協定の更新調印式を実施
- ・郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催
- ・カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが本学を訪問
- ・能楽ワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催
- ・「日本の魅力を発信！ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催
- ・マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、アンダラス大学（インドネシア）を訪問
- ・チェンマイ大学学長らが本学を訪問
- ・連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2025」等を開催
- ・南フロリダ大学から保健管理センター長の山本教授へGlobal Leadership Awardを授与
- ・マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問
- ・インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムへ参加

## シーナカリンウィロート大学（タイ王国）と 大学間学術交流協定を締結

### 【概要】

3月27日、岐阜大学とシーナカリンウィロート大学（SWU：タイ王国）は大学間学術交流協定を締結しました。調印式には岐阜大学から吉田和弘学長、リム・リーフ副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当）、小山博之グローバル推進機構長、山田雅弘教育学部長、野村幸弘教育学部教授、大場伸也応用生物学部附属フィールド科学教育研究センター教授らが出席し、SWUのチョルウィット・ジェアラジット学長はじめ33名の訪問団を歓迎しました。

本学とSWUの交流は2015年3月に両大の教育学部間で部局間協定を締結したことから始まりました。2017年8月にはタイ教育省と岐阜大学が共同で「第1回特別支援教育国際シンポジウム」を開催し、2022年12月には大場教授がSWUを訪問し連携を深めました。2023年1月にはSWUのキッチャイ助教と大学院生12人が教育学部と応用生物学部附属岐阜フィールド科学研究教育センターを訪問しました。

さらに、2024年7月にはSWUのソムチャイ・サンティワタナクンル学長をはじめとする教職員10名と学生16名が本学を訪れ、教育学部の施設見学や岐阜フィールド科学教育研究センターでの障がい者によるトマト栽培を見学しました。

岐阜大学とSWUは今回の協定締結により学術交流をさらに深め、今後より一層の教育・研究交流を推進していきます。



チョルウィット・ジェアラジット学長と吉田和弘学長



シーナカリンウィロート大学訪問団との記念撮影

## 南フロリダ大学が岐阜大学を訪問し、 学術交流協定の更新調印式を実施

### 【概要】

4月3日から4日にかけて、南フロリダ大学（USF）訪問団17名が岐阜大学を訪問し、学内外施設の視察および、学術交流協定書の更新調印式に出席しました。

訪問団は、4月3日に県内の関係施設を訪問し、岐阜市役所の柴橋正直市長を表敬訪問しました。翌4日は、岐阜大学において、両大の学術交流協定の更新調印式を執り行いました。調印式は、岐阜大学 吉田和弘学長と南フロリダ大学のレア・ロー学長による冒頭挨拶に続き、本学のリム・リーフ副学長（国際展開担当）、南フロリダ大学のキキ・カルーソン副学長（国際担当）から、それぞれの大学に関するプレゼンテーションが行われた後、協定書への調印を行い、学術交流協定を更新しました。

この協定は、南フロリダ大学との国際交流を促進し、学生や教職員の交流を活発化させることを目的としています。同大とは2016年に医学部が部局間協定を締結し、交換留学制度が確立しました。2020年の大学間協定締結後は、毎年、学生・教職員がそれぞれの大学を訪問し交流を深めており、2024年には、南フロリダ大学医療教育シミュレーションセンターとの提携協定に発展しています。今回の協定更新はこのような交流をさらに発展させるために、両大学の強い希望により行われました。

今回の訪問により、岐阜大学と南フロリダ大学の学術交流がさらに深まり、学生や研究者の一層の交流が促進されることを期待されています。



調印式後の記念撮影

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/4/13	岐阜	岐阜大と南フロリダ大 学術交流協定を更新 ～吉田和弘学長～

## 郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催

### 【概要】

5月14日（水）日本語・日本文化教育センターは、「郡上踊り」のワークショップを開催しました。「郡上踊り」は、ユネスコ無形文化遺産であり、国重要無形民俗文化財に指定されている踊りです。当日は、アメリカ、インド、インドネシア、イラン、スペイン、タイ、中国、パキスタン、東ティモール、フランス、ベトナム、マレーシアからの約30人の留学生が参加しました。

ワークショップの始まりに先立ち、美濃市の着付けグループの方々が浴衣の着付けを行い、留学生たちは色とりどりの浴衣を身に着け、写真撮影を楽しみました。ワークショップでは、郡上市から2名の講師を招き、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を指導していただきました。講師から手の動きや足の動きを丁寧に学び、参加者は真剣に日本の伝統文化を体験しました。ワークショップの最後には郡上市ゆかりの記念品が配られました。留学生からは「最初は難しいと思ったが、踊れるようになって嬉しかった」「もっと郡上踊りを学びたい」という感想が寄せられました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



「かわさき」ポーズで集合写真



「かわさき」を習う留学生たち



輪踊りの様子



郡上市ゆかりの記念品と留学生

## カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが 本学を訪問

### 【概要】

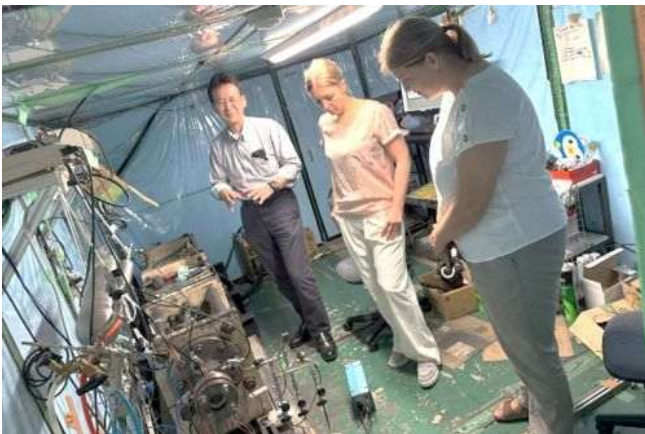
6月9日（月）・10日（火）に「リトアニア・日本ビジネスフォーラム」、「リトアニア・日本科学フォーラム」が東京にて開催され、本イベントに参加していた、カウナス工科大学 モニカー・マジアキーン准教授とリトアニアエネルギー研究所 ラミンター・スクボーシンスキーン研究員が、6月17日（火）に本学を訪問しました。

マジアキーン准教授とスクボーシンスキーン研究員は、リム・リーワ副学長及び工学部の毛利哲也教授から岐阜大学や岐阜県に関する説明を受け、本学の研究内容や岐阜県との連携について理解を深めるとともに、機械工学に関する意見交換を行いました。また、航空宇宙生産技術センターや工学部研究室の見学を行い、岐阜大学の教育・研究活動を体験しました。

本学は、カウナス工科大学と2010年4月に大学間学術交流協定を締結しており、今後もリトアニアとの活発な学生交流及び研究者交流を展開していきます。



記念写真



施設見学の様子



施設見学の様子

## 能楽ワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催

### 【概要】

7月9日（水）、日本語・日本文化教育センターは、能楽(能・狂言)ワークショップを開催しました。今回のワークショップには、6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む約50名が参加し、日本の伝統文化を堪能しました。

センターでは、2005年度からプロの能楽師を招いてワークショップを開催していますが、今年は、能の講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生、狂言の講師として、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生と山口耕道先生の計4名をお招きしました。

ワークショップでは、仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史、謡「高砂」の稽古、能と狂言の面（おもて）の違い、能楽の楽器、狂言の「笑い」と「泣き」の表現、狂言「寝音曲(ねおんぎょく)」と能「安達原」の鑑賞、能装束の特徴など、参加者は充実した学びの時間を過ごしました。また、日本語が堪能ではない参加者を念頭に、英語を交えた説明が行われました。

普段なかなか触れることができない本物の「能」「狂言」を体験する貴重な機会となりました。参加者の満足度も高く、アンケート結果は、非常に良好でした。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



能と狂言の面の違い



能楽で使用する楽器



能装束の着付け



集合写真

## 「日本の魅力を発信！ ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催

### 【概要】

7月14日（月）、グローバル推進機構は、岐阜大学シンポジウム・GU-GLOCALシンポジウム2025「日本の魅力を発信！ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催し、学内外より300名を超える参加者の来場がありました。

はじめに、映画・ドラマプロデューサーの山田兼司氏が「映画における"世界"とは」をテーマに講演しました。山田氏は、多くの国際的評価を受けた経験から、国境を越えて人の心を動かすストーリー作りには不可欠な"4つの原則"と"7つのエレメント"を軸に、人の心を動かすコンテンツ制作の視点について説明しました。

続いて、脳科学者で作家の茂木 健一郎客員教授、リム リーフ副学長が登壇し、『ストーリーのカ×グローバル視点が生み出すモノとは？』をテーマに、3名の異なる立場からクロストークを行いました。世界を直接目指すのではなく、自分の半径5メートルを深く掘り下げることこそが、結果的にグローバルに通じる普遍的な価値や共感にたどり着く、との考えを共有しました。

参加者からは、「映画の話かと思っていたが、どんな分野にも通じる内容だった」、「自分のストーリーを深めるために、ネガティブな面にも向き合い、"好き"を突き詰めたいと思った」など、前向きな感想が多数寄せられました。

グローバル推進機構では、今後も学生・教職員・地域の皆様に向けた国際的な視点を育む企画を継続して開催してまいります。



会場の様子



山田氏による講演



クロストークの様子

## マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、 アンダラス大学（インドネシア）を訪問

### 【概要】

9月8日(月)から15日(月)にかけて、マレーシア国民大学及びマラヤ大学、アンダラス大学を訪問しました。

マレーシア国民大学は、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）連携大学です。今回、新たに学長に着任したSufian Jusoh学長を表敬訪問し、学生間交流・学術連携、JDPの拡大について意見交換を行いました。また、医学部附属病院において、医療現場の視察、医学部学生・医師・スタッフとの交流の可能性について意見交換を行いました。

マラヤ大学においては、今後の両大学間における教育・研究の連携を一層推進するため、協力意向書（Letter of Intent: LoI）の署名式が執り行われました。また、共同研究の推進に向けた協議を行うとともに、学生交流や学術交流の可能性について、Hasniza Binti Zaman Huri副学長（学術・国際担当）らと意見交換を行いました。

さらに、在マレーシア日本国大使館を訪問し、四方敬之特命全権大使はじめ、JDPガイドライン作成に携わり、本学のJDP設置に支援いただいた北岡龍也参事官、岐阜県庁から出向中の安江俊二三等書記官らと、マレーシアにおける大学の展開について懇談しました。

マレーシアに引き続き、インドネシアのアンダラス大学も訪問しました。アンダラス大学は、本学との大学間学術交流協定校の中で最も長い歴史を持っています。同大学において、Efa Yonnedi学長、Syukri Arief副学長らとの懇談を実施し、翌日に行われた創立記念行事にて、吉田学長がこれまでの医学分野における貢献・業績や今後の展望、岐阜大学および東海国立大学機構の特色について、アンダラス大学教職員及び学生に向けた基調講演を行いました。

その後、岐阜大学インドネシア同窓会のメンバー約30名との懇談を実施し、岐阜大学での生活の思い出や今後の交流の可能性について意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両国との教育・研究連携のさらなる深化が期待されます。



マレーシア国民大学のSufian Jusoh学長と吉田学長



マラヤ大学におけるLoI署名式

～国際化に関連する取組～

マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、  
アンダラス大学（インドネシア）を訪問



在マレーシア日本国大使館での集合写真



アンダラス大学創立記念行事にて基調講演を行う吉田学長



アンダラス大学創立記念行事での集合写真

## チェンマイ大学学長らが本学を訪問

### 【概要】

10月9日（木）に、タイのチェンマイ大学よりポングラック・スリバンディトモンコル学長ら6名が本学を訪問しました。

本学とチェンマイ大学との友好関係は、1980年代に本学医学部との交流を契機として始まり、2003年には両大学間で学術交流協定を締結しました。その後も双方の大学への訪問など交流が続いており、今回の訪問では、大学間学術交流協定の更新に関する署名式が執り行われました。

式典では、吉田学長より、両大学の連携強化の機会を得られたことへの感謝が述べられ、今後は医学・工学・農学など幅広い分野で協力を図り、一層の交流を進めていくことが話し合われました。

今回の協定更新により、岐阜大学とチェンマイ大学は学生交流・学術交流をさらに深め、教育・研究交流を推進してまいります。



大学間学術交流協定更新の署名式



集合写真

## 連合農学研究科が 「IC-GU12 Roundtable 2025」等を開催

### 【概要】

連合農学研究科は、11月10日（月）に、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（IC-GU12）による第14回「IC-GU12 Roundtable Meeting 2025」を静岡大学農学部にて開催し、国内外の加盟校教員等31名の出席がありました。「農学分野におけるAI・データサイエンス教育」をテーマに、各大学の事例紹介やAI教育の現状や課題、農学分野での応用、教育ネットワーク構築に関する議論が行われました。

同時に、同会場にて研究ポスター発表「UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Sciences 2025」も開催し、本研究科の学生44名がポスター発表しました。学生たちは来場者と積極的に意見交換を行い、最新の研究動向を学ぶとともに、自身の研究をさらに発展させるための機会となりました。発表後には投票による選考が行われ、本研究科の5名の学生にBest Presentation Award（最優秀発表賞）が授与されました。

加えて11月11日～13日の間、静岡市内において「VI Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems（第6回アジア収穫後システムの品質管理に関するシンポジウム）」を国際園芸学会、日本園芸学会、静岡大学とともに開催しました。本研究科の学生9名が口頭発表やポスター発表を行いました。本イベントは「Innovative Technology for Sustainable Production and Preservation」をテーマに、収穫後システムにおける品質管理技術や最新の技術紹介、各大学の研究成果等を共有しました。また、生物生産科学専攻2年のNAHAR ASHRAFUNさんが「ISHS Young Minds Award for the Best Oral Presentation」を受賞しました。上記期間中は静岡県内の農業関連施設を訪問する視察ツアーも行われました。



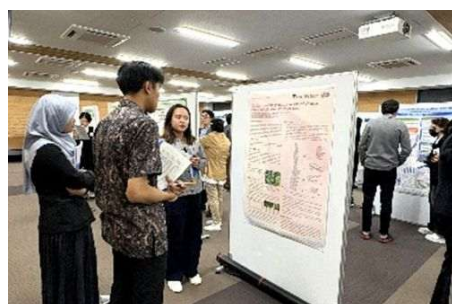
IC-GU12ラウンドテーブルの  
参加者集合写真



IC-GU12ラウンドテーブルの様子



ポスタープレゼンテーション  
参加者の集合写真



ポスタープレゼンテーションの様子



ASQP2025 会場の様子



ASQP2025表彰式の様子

## 南フロリダ大学から保健管理センター長の山本教授へ Global Leadership Awardを授与

### 【概要】

12月12日（現地時間）に実施された南フロリダ大学（USF）の卒業式において、本学保健管理センター長の山本眞由美教授がGlobal Leadership Awardを授与されました。

山本教授は本学医学部を卒業後、USFに博士研究員として留学、また同大の臨床医のためのMBAプログラムも卒業しました。現在も本学の保健管理センターおよび連合創薬医療情報研究科の教授とともに、USFのCollege of Public Healthの客員教授として活躍しています。

本学とUSFは2016年に締結した医学部間の協定から本格的な交流をスタートし、両大学から毎年それぞれ5名の医学部生が臨床および研究研修プログラムに参加しているほか、USF学部生20～40名が毎年岐阜を訪問し、医学部医学科・看護学科の学生と交流する貴重な機会を提供しています。これらの取り組みを基盤として2020年には大学間学術交流協定を締結、2025年4月には学長をはじめとする20名ものUSF役員らが本学を訪問し更新調印式を挙行了しました。

これらの交流発展のほか、山本教授はオンライン共修授業や全学レベルの交換留学協定においても中心的な役割を果たしており、両大学間の学術連携の発展に対する貢献が非常に高く評価され、USFから表彰されることとなりました。

今後、両大学の教育・文化的結びつきが益々強化されることが期待されます。



USFのレア・ロー学長（右）からトロフィーを授与される山本教授（中央）

## マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問

### 【概要】

1月7日、岐阜大学はマレーシア国民大学（UKM）学生センターからNorinsan Kamil Othman副学長をはじめとする6名の訪問団を迎えました。今回の訪問は、2月にUKMで実施予定の職員海外実務研修において、本学職員の受け入れを予定していることを契機としたものです。UKMは、岐阜大学が重点的に取り組んでいるジョイント・ディグリープログラムを設置している、重要な協定校です。

学長表敬訪問では、2025年9月に吉田学長がUKMを訪問し、Sufian Jusoh学長との面談や学生・研究者や教職員の交流拡大について意見交換を行ったことが紹介され、両大学間の更なる協力強化への期待が述べられました。

その後、リム・リーワ 副学長（国際担当）および教育推進・学生支援機構の高橋周平 副機構長から本学の取り組みの紹介がありました。さらに航空宇宙生産技術開発センターを視察し、本学の最先端の研究設備を紹介しました。

学内視察などには、UKMでの職員海外実務研修に参加予定の本学職員や、本学に留学中のUKM学生も同行し、学生交流の拡大や今後の協力、岐阜大学での学生生活などについて活発な意見交換が行われました。

今回の交流を通じて、両大学の学生・教職員間の連携が一層深まり、ジョイント・ディグリープログラムを含む国際交流のさらなる発展が期待されます。



マレーシア国民大学訪問団との記念撮影



記念品を交換する吉田学長と  
Norinsan Kamil Othman副学長（学生担当・同窓会担当）

## インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムへ参加

### 【概要】

3月7日から11日にかけて吉田学長、リム副学長（国際担当）らが、協定大学のインド工科大学グワハティ校（IITG）を訪問しました。3月9日には同校で開催された「グワハティJDPシンポジウム」に吉田和弘学長が登壇し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の可能性について幅広い議論を交わしました。

同シンポジウムには日印双方の大学関係者をはじめ、政府関係機関や産業界関係者など約190名が参加し、冒頭では、吉田学長は日印間の学術協働の重要性を述べ、リム副学長は本学の国際展開や、大学間で学位を授与するジョイント・ディグリープログラム、インドとの教育・研究協働の広がりについて紹介しました。

さらに、シンポジウム内で開催された会議において、岐阜大学とIITGを含む北東インドの計22大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム（NER-Japan international academic and research consortium）」の設立に向けた意向表明書（Letter of Intent : LoI）署名式が行われました。岐阜大学は本コンソーシアムにおいて日本側の調整機関として位置づけられ、IITGと連携しながら北東インドと日本の大学・政府・産業界の連携を推進する役割を担います。

本学はこれまで、日本で唯一、IITGとのジョイント・ディグリープログラムを運営し、北東インドを活動の中心に、教育・研究の分野で先導的な連携を進めてきました。今回のLoI署名は、10年以上続く日印協働をさらに発展させ、大学間交流の枠を超えて、地域開発や産業界との連携へと広がる新たな段階を示すものです。

午後に行われた学術セッション「Health-care for a better tomorrow」では、吉田学長が自身の研究成果を紹介するとともに、本学が取り組む医療・生命科学分野における国際共同研究の展望を講演し、日印双方から高い関心が寄せられました。

同日夜には、アッサム州政府主催のバンケットが開催され、日本学術振興会（JSPS）や科学技術振興機構（JST）、国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、日本企業関係者、本学からは吉田学長、リム副学長、小山グローバル推進機構長が出席しました。会場では、日本企業による北東インド進出や、研究・教育連携、学生交流などについて意見交換が行われ、岐阜大学が日本とインド北東部をつなぐ「ハブ」として果たす役割の重要性が改めて共有されました。

岐阜大学は、今回のシンポジウムおよびLoI署名を新たな起点として、北東インド地域を中心とした日印の学術・研究・産学連携をより強固にし、「地域から世界へ」の理念のもと、今後もより一層国際展開を推進してまいります。



シンポジウム参加者との集合写真